

松阪市子ども支援研究センターだより

E-mail: kyo.div@city.matsusaka.mie.jp <http://www.city.matsusaka.mie.jp>

松阪教育支援センター「鈴の森教室」TEL 26-1900 FAX 26-1901 E-mail: suzunomori@matsusaka.ed.jp
 松阪教育支援センター「うれしの教室」TEL 42-7374 FAX 42-4568 E-mail: uresino-k@matsusaka.ed.jp

センター内の唯一の窓から、鈴の音バスの「クラギ文化ホール」のバス停が見え、道路を挟んで、鈴の森公園の噴水が見える。4月から、幼小中の子どもたちでにぎわい、この時期は水着姿の幼児たちのはしゃぐ姿とその様子を微笑ましく見守る大人の姿が見える。



5月には、近くの阪内川で「鯉吹かし」が行われ、6月には、公園内の紫陽花の色や蛍の市内での鑑賞スポットが、センター内の所員の間で話題になっていたばかりなのに、もう7月。新年度が始まり3か月が、今年になり半年が過ぎた。

映画「64 (ロクヨン)」は、“映画史に残る名作を、豪華キャストで”というキャッチフレーズで話題になり上映されている。また、韓流ドラマ「未生 (ミセン)」は、4人の新入社員の会社のそれぞれの部署での奮闘の姿が、TVで連続放映されている。学校現場にいるときより“組織”とか、“上司と部下”とかについて考えることが多くなったこの頃、いつの間にかそういう観点でみている。(単純に「職場は明るく、仕事は楽しく」というわけにはいかないようで。)

わがセンターもなかなかのキャスティングで、一人ひとりが十分なスピンオフドラマの主演を担える人材なので、ここで詳しく紹介したいところだが、残念ながら個人情報のため控えることにする。そのかわり、お近くにお越しの際は、ぜひ、子ども支援研究センターにお立ち寄りいただき、映画やTVドラマに勝るとも劣らないチーム『こしけん』の舞台や配役をみていただきたい。いつでも変わらない“おもてなし”をどうぞ。

P.S. 4月と6月に、いずれも前任校の職員の結婚披露宴によばれ、どちらも乾杯の音頭をとらせていただいた。会場は違ったが司会者が同じ方で、2回目のスピーチで前回と同じオチをいう前に、司会者に笑われてしまった。さて、3回目はあるだろうか・・・

(藪 晃明)

研修講座について

本年度も研修講座にたくさんのお申し込みをいただきありがとうございます。現在、第2次募集をさせていただいております。メール(kyo.div@city.matsusaka.mie.jp)にてぜひお申し込みください。また、当センターのWebページに受付情報を掲載し、随時更新しております。申込書(別紙1)もダウンロードできます。ご利用ください。

(<http://www.city.matsusaka.mie.jp/www/contents/1431398600385/index.html>)

～これから実施の講座紹介～

8月2日(火) B-1 授業力向上

「心が動く授業 2016

「子どもを伸ばす、話芸・手芸」

中村 武弘 先生

南伊勢町立南勢小学校 校長

子どもたちにどう主体的に考えさせるのか、そのために子どもにどのように聞くのか、問い返すのか。中村先生の話芸・手芸を学び、9月からの授業実践に活かしてみませんか。

8月4日(木) B-14 メンタルヘルス

「教育現場に必要なメンタルヘルスの基礎と応用」

十一 元三 先生 京都大学大学院医学研究科 教授
 義村 さや香 先生 京都大学大学院医学研究科 助教

私たちが抱える悩みには、その背景にメンタルヘルスの問題があることが多くあります。この講座では、京都大学大学院のお二人の先生に、その基礎と応用についてお話ししていただきます。

8月8日(月) B-6 人権教育

「生活つづり方魅力満載

～過去は変えられるのに～

大久保 幸一 先生

大和高田市人権教育推進協議会 事務局長

生活つづり方の会 奈良代表

子どもたちの心を成長させたい、子どもたち
どうしをつなげたい……。そんな私たちの願
いに、多くのヒントをいただける、大久保先生
の実践に基づいたお話です。

8月18日(木) B-12 学級づくりⅡ

「岩手県矢巾町のいじめ・自殺問題の教訓と
ユーマア詩の取り組み、及び学級崩壊からの脱却の
ためのワークショップ

～子どもの不快感を共有することの意味～

増田 修治 先生

白梅学園大学子ども学部子ども学科 教授

子どもたちの関係をどうとらえ、どのような手立
てをとるか等、共感的な人間関係を育む学級づくり
について具体的事例をもとに学ぶことができる講座
です。

8月25日(木) B-10 健康教育

「学校におけるアレルギー疾患対応について」

長尾 みづほ 先生

独立行政法人国立病院機構三重病院

アレルギーセンター臨床研修部

アレルギー疾患開発研修室 室長

子どもたちの安全を守る上で、アレルギー
に関する教職員の知識は重要です。

大きく報道された悲しい事故を繰り返さな
いための大切な学びの機会と考えています。

8月30日(火) B-16 特別支援教育Ⅰ

「秩序ある崩れないクラスづくり～パート3～」

松久 眞美 先生

プール学院大学教育学部教育学科 准教授

先生ご自身が小学校、特別支援学校で教員として
実践されたことをもとに、特別支援教育の視点から
学級づくりについて、詳しくお話していただきま
す。

この他にも、おすすめ講座が多数あります。
お申し込みお待ちしております。

追加申し込み受付中

社会科副読本編集委員会より

○どうぞご活用ください○

社会科副読本編集委員会では、毎年新しい資料を加えたり、データを最新のものに更新
したりしています。昨年度は、4月から稼働し始めた松阪市クリーンセンターに委員が取
材に行き、「第4章 1 くらしとごみ」のページをリニューアルしました。他の章もそ
れぞれの委員の取材をもとに、写真や数値等のデータも随時更新してきました。今年度も
引き続き、最新の情報を掲載できるようにしたいと考えています。

もし、このホームページを一度もご覧になったことがない方がいらっしゃったら、ぜひ、
ご覧ください。小学校3・4年生の学習で使えるワークシートや、他の学年や他の教科の
さまざまな学習に活用できるページもありますので、ぜひ、社会科副読本『わたしたちの
松阪市』を教材としてご活用いただきますようお願いいたします。

※「わたしたちの松阪市」ホームページアドレス (<http://fukudokuhon.jp/>)

～ 編集委員の紹介 ～ < 敬称略 >

委員長	松本 吉弘 (第一小)	技術指導	島崎 良
編集委員	前出 仁美 (松江小)	編集委員	東 徹 (伊勢寺小)
編集委員	井本 賢治 (掬水小)	編集委員	立岡 一宏 (射和小)
編集委員	伊藤 豊子 (中原小)	編集委員	川合 淳一 (天白小)
編集委員	野呂 郁子 (宮前小)		
事務局	高橋 正寛 (子ども支援研究センター)	湯田 文雄 (子ども支援研究センター)	